

平成 31 年度(2019 年度) 県立石岡第二高等学校自己評価表

目指す学校像	◇心身ともに健康で、礼儀正しく、明るく積極的な生徒を育成する学校 ◇生徒一人一人が、確かな学力を身に付け、個性や適性を知り、適切な進路を実現する学校 ◇地域社会と連携し、地域社会に開かれた学校 ◇日本の伝統文化に親しむとともに、国際感覚を併せ持つ生徒を育成する学校		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
○茨城県教育委員会「一人一人が輝く活力ある学校づくり推進事業」強化校の指定を受け、特色ある学校づくりを推進した。今年度は強化校継続であるが、事業をより充実させ、「本物」「一流の」体験等を通し、生徒一人一人の適性に合った職業観の育成を目指す。 ○「深い学び」「対話的な学び」「主体的な学び」を大切にする授業を展開するために教職員の研修を進め、学校全体で「わかる授業」を目指し成果を上げることができた。さらに生徒の家庭学習につながるようにしたい。 ○進路ガイダンスの充実により、生徒の進路希望をほぼ達成することができた。進路意識の高揚を図り、生徒の主体性を高める体験的な活動の推進も必要である。 ○制服や頭髮の指導については、地域からも評価されている。規範意識・モラルのさらなる向上を図っていく必要がある。 ○地域のボランティア活動に参加する生徒が増えてきており意識も高い。部活動加入生徒数が減少傾向にある中、部活動活性化に向けて手だてを講じていきたい。 ○日本の伝統文化に触れる機会を増やすとともに、国際交流活動が実現できるよう努力する。 ○学校ホームページの充実を心がけ、閲覧数を増やすことができた。チラシやポスターなどの作成の他に学校の認知度を上げる広報手段を考え志願者を確保する。	筑翠ルネサンス事業の位置付けを明確化して実施し、日本の伝統文化体験や国際交流体験活動を定着させる。	①「本物」「一流の」体験等を通して、生徒一人一人の適性に合った職業観の育成を目指す。 ②日本の伝統文化に対する生徒の理解を深め、郷土を愛し伝統文化を尊重する態度を養う。 ③国際交流事業を継続させ、積極的に生徒の参加を促す。	A
	基本的生活習慣の定着と規範意識やモラルの向上を図る。	④教職員自らが率先垂範し、笑顔でのあいさつやマナー、清掃、整理整頓など基本的生活習慣の定着に努め、道徳の授業や道徳プラスの授業等、規範意識やモラルを高める取組を充実させる。 ⑤服装指導や生活指導を計画的・継続的に行い、生徒に自律的で責任ある生活習慣を身に付けさせる。 ⑥生活習慣・しつけなどの家庭の教育力の重要性について啓発し、その向上を図る。	A
	他の人を思いやることができ、周りに配慮することができる生徒を育成する。	⑦教職員は、生徒一人一人の状態や特性を踏まえ、教育的ニーズに応じた配慮や支援を継続して行い、生徒に範を示す。 ⑧困っていることや配慮してほしいことを、自らの方法で相手に伝えられるよう、生徒のコミュニケーション力を育成する。 ⑨不登校・いじめ等の未然防止と解消に向けた生徒の自主性・自立性を育成する。	A
	授業の工夫改善を行い、生徒の学力及び体力向上を図る。	⑩「深い学び」「対話的な学び」「主体的な学び」を意識した授業の実現に努め、授業の活性化を図る。 ⑪体力づくり推進委員会を設置し、体育・スポーツ活動と体力の向上に取り組む。 ⑫授業研究や校内研修を積極的に進め、授業力の向上に努めることで、生徒の学力及び体力向上を図る。	A
	部活動やボランティア活動などの体験的な活動への積極的な取組を行う。	⑬教職員自らが先頭に立ち、部活動を活性化と充実を図るための取組を力強く進める。 ⑭生徒会の主体的な活動を促し、活動の活性化を図る。 ⑮スキー教室やボランティア活動などの体験的な活動への参加を促す。	A
	「なりたい」を「なる」に鍛える職業観・勤労観を育成し、生徒の希望進路を実現する。	⑯体系的なキャリア指導計画に基づき、生徒が目指す進路に関して理解を深めることで、進路意識の高揚に努める。 ⑰従来のインターンシップや大学・専門学校・企業などの見学を検証し、	A

別紙様式 2 (高)

		生徒の主体性をさらに助長するように努める。 ⑮生徒の進路選択のためのガイダンスや面談の充実を図り、個に応じた進路指導を一層推進する。			
	学校図書館の充実を図る。	⑰学校図書館を自学自習できるように整備し、生徒の確かな学力や豊かな感性を育む場として活用する。 ⑱図書主任が中心となり、生徒と本を繋ぐ施策を策定し、実施に向けた教育計画を立案する。	A		
	保護者の声や地域の声を真摯に受け止めて、広報活動の充実を図る。	⑳教職員一人一人が広告塔としての意識を持ち、責任を持って学校の教育活動及び生徒の学習活動の成果を広報するとともに、生徒の確保に努める。 ㉑動画配信なども活用して、ホームページをさらに充実させ、学校の教育活動及び生徒の学習活動の成果を常に発信する。 ㉒一人でも多くの県民に、本校の教育活動を知ってもらうために、新たな広報のツールを検討し実施に努める。	A		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題	
教務	教育課程の適切な運営と授業の充実を図る。	生徒の実態に合わせ各分掌と調整しながらよりよい教育課程を作成し、適切に運営する。	B	A	本校の教育方針や将来構想を踏まえて、新学習指導要領の実施に伴う新教育課程を策定させる。 カリキュラム・マネジメントを推進し、横断的・縦断的な視点で教育内容を組織化する。 「主体的・対話的で深い学び」について授業公開や校内・校外研修等を一層充実させ、授業改善を継続的に行う。 HP, Twitter, 学校通信等による情報提供を拡充し、学校から校内外への情報発信を充実させる。
		新学習指導要領の導入を見据え、「主体的・対話的で深い学び」を踏まえた授業を展開できるよう、研修報告の場を設けるなどの校内研修を実施する。	A		
		各学年、教科ごとのシラバスを作成し、有効活用を図る。	B		
	適切な学校行事を作成し、教育活動の円滑な実施に努める	各分掌と連携をとりながら行事の精選を行い、バランスの取れた年間行事計画を作成する。	A		
	事務処理の効率化と適正な情報管理を図る。	校務支援システムによる成績管理システムを整備し、全職員が円滑に運用できるようにする。	A		
		成績一覧票、通知表等の処理を円滑、確実に行う。	A		
		奨学金等に関する広報と事務処理を的確に行う。	A		
	広報活動を充実させる。	本校への理解を深める機会として夏季休業中の中学生体験学習、秋の学校公開・中学生対象学校説明会、つくば市での進学フェアへの参加、中学校訪問等を行う。	A		
		各分掌と連携しながらホームページを迅速に更新したり、学校案内パンフレットの内容を充実させたりすることで、保護者や地域、受験生に石岡二高の校内外の取り組みを広く伝える。	A		
進路指導	各学年の進路指導計画に基づいた職業観・勤労観を育成し、生徒の希望進路を実現する。	1 学年：進路講演会、職業人との懇談会等を通して進路意識を育成する。	A	A	オープンキャンパス等へ数多く参加し、比較・検討した上で志望校を決定させたい。 保護者にはマネープラン講演等に積極的に参加していただき志望校の卒業
		2 学年：進路別見学会、インターンシップ、進学相談会参加等を通して個々に合った進路意識を明確化する。	A		
		3 学年：1・2 学年で獲得した進路に対する知識・経験を基に、個々の進路を実現させる。	A		
	学力を養成し、大学・専門学校の進学率を高める。	土曜課外、平常課外授業等へ積極的に参加させ、基礎学力・応用力の向上を図る。	A		

別紙様式 2 (高)

		大学・専門学校のオープンキャンパスへの積極的な参加を促すとともに、大学への進学・入試に対して早期の意識づけをする。	A		までの学費の総額やその捻出の方策について理解させていきたい。
		校外模試を積極的に活用し、生徒一人一人の学力をきちんと共有・分析し、よりよい進路選択ができるよう指導する。	A		
生徒指導	基本的生活習慣を定着させる。	服装指導や生活指導を計画的・継続的に行い、生徒に自律的で責任ある生活習慣を身につけさせる。	B	B	基本的生活習慣を定着させる為の指導や、服装指導において、学年間の差があり、また従来行ってきた指導方法に綻びが見えていところもある。社会の現状に合わせつつ、共通理解を持って、一丸となって指導できる体制作りに努めたい。
		生活習慣・しつけなどの家庭の教育力の重要性について啓発し、その向上を図る。	B		
	心の教育を充実させる。 (規範意識とモラルの向上)	挨拶を率先して行い、礼儀や言葉遣いなどマナーを身に付けさせる。	A		
		自己を大切にし、他人を尊重する心を養う。	A		
	問題行動の未然防止に努める。	校内・校外の巡回指導を継続的に行う。	B		
		生徒の小さな過ちを見逃さない。	B		
	交通安全教育を推進する。	関係諸機関との連携を図り、交通講話などを実施して事故防止に努める。校外巡視指導や保護者との連携により事故及び防犯に関して確認事項の徹底を図る。	A		
	地域社会の信用を得る。	学校外での行動に繋げるための望ましい習慣を身につけさせる。	B		
生徒指導 いじめ防止	未然防止に努める。	いじめ未然防止のため、生徒の規範意識を高める。	A	A	情報に対しての対応に、迅速さ・丁寧さが欠けることがあった。次年度は更に組織として動けるように危機意識を高めたい。 インターネット関連について、教員側の最新の知識や対応策が不十分なので、次年度は研修の機会を増やしたい。
		生徒が教職員に相談しやすい関係を構築する。	A		
		情報モラル教育を推進する。	A		
	早期発見に努める。	生徒の発する小さなサインを見落とさず、いじめの早期発見に努める。	A		
		相談窓口を複数周知し、相談しやすい関係を構築する。	A		
	早期解消に努める。	適切にいじめの事実を確認し、被害者の心のケアをする。	A		
		加害者に対して、いじめをやめさせる指導を徹底する。	A		
		重大事件があった場合、速やかに調査結果を県教育委員会を通じて知事に報告する。	A		
		インターネットを通じて行われるいじめの対応をする。	A		
	関係機関との連絡体制の強化に努める。	保護者と密接に連絡を取り合い、事実の掌握と早期発見・早期解決に努める。	B		
		警察、児童相談所、法務局等の関係機関と連絡体制を構築し、相談することで早期解消を図る。	A		
	教職員の研修を深める。	いじめや、インターネット環境等に関する研修や実践的研修を行い、いじめの対応方法の共通理解を図る。	B		
特別活動	生徒主体の自発的な生徒会活動を展開する。	役員を中心に、生徒の自主性を尊重した生徒会行事の企画・準備・運営に取り組む。	A	A	今年初の文化発表会やリーダー研修会などで、生徒の主体性や意欲が見られた。多様なボランティアに参加する生徒が増えた。新入生体験入部を実施し加入率が増加した。入部後継続させることが課題。
		各種委員会の活性化を図る。	B		
	体験活動に取り組ませる。	ボランティア活動やスキー教室を通して、豊かな人間性を育むことができるよう、体験的な活動を支援する。	A		
	部活動の活性化を図る。	入部制度や、リーダーの育成を工夫し、部加入率の向上を目指す。	A		

別紙様式 2 (高)

伝統文化 国際交流	体験活動を推進する。	体験活動の機会を設け、生徒一人一人が達成感や充実感を持てるようにする。日本の伝統文化に対する生徒の理解を深め、郷土を愛し伝統文化を尊重する態度を養う。	A	A	・体験活動の実施により、伝統文化に対する興味関心を深められた。 ・国際交流は充実したものになったが、事前指導等の改善を図りたい。
	国際交流体験を充実させる。	生徒に海外研修への積極的な参加を呼びかけ、国際交流の場を設定する。	A		
保健厚生	生徒が学習するために適切な環境を整備する。	安全点検、環境衛生検査を実施する。	A	A	ワックス塗布や大掃除以外にも、中庭のタイル清掃を整備委員、生徒会及び教職員で団結して行うことができた。安全点検・環境衛生検査を実施し、印刷室の棚の整理など、危険個所の改善に努めた。
		清掃監督の先生方や整備委員と連携し、ワックス塗布、大掃除等を行い校内美化に努める。	A		
	心身の健康の維持・増進に努め、生徒の心の居場所を提供し安らげる環境を整備する。	保健委員、福祉委員と連携し、外部講師による性教育講話と献血を実施する。	A		
		食育を推進し、体力の養成に努める。担任・保護者・S C と連携し生徒をチーム支援していく。またカウンセリングの環境を整える。特別支援を必要とする生徒を個別に支援する体制を整える。	B		
図書	生徒の自発的、主体的な学習活動を支援し、教育課程の展開に寄与する。	「学習・情報センター」として、学校図書館を活用した学習活動や読書活動を日々の各教科等の指導に取り入れ、生徒の思考力、判断力、表現力等を効果的に身に付けさせる。	B	A	英語検定や入試に関連する教材の購入を増やしたことで貸し出し数が増え、また、図書館のレイアウトを変えたことで利用しやすくなり、放課後、勉強で利用する生徒が増えた。調べ学習等で教員・生徒が利用しやすように図書の充実を図りたい。
		生徒の自学自習の場として利用の促進を図るため、環境整備に努める。	A		
		学習に関連としたコーナーを設け、生徒の利用する意欲を高める。	A		
	生徒の想像力を培い、興味・関心や豊かな心をはぐくむ、自由な読書活動や読書指導に取り組む。	「読書センター」として、生徒の知的活動を増進し、人間形成や情操を養う場となるよう努める。生徒の読書習慣の形成を図るため、図書館だよりを発行する。	A		
		リクエストカードを設置し生徒の希望書籍を購入することで、読書意欲を高める。	A		
渉外	保護者の参加意欲を高めるため、PTA活動への親しみや関心を持てるように広報するとともに家庭との連携を深める。	本部役員と密に連携をとり、スムーズな組織運営に努める。	A	A	全体として PTA 活動はスムーズに実施できた。会員相互の交流という面ではさほど前年と変わらなかった。巡視活動も前年並みに実施できた。
		会員相互の交流を図る行事等を計画するとともに、広報誌やPTA各支部による広報活動を工夫することで情報を発信していく。	B		
		地域の巡回指導やマナーアップ推進運動に参加・協力し、地域社会に貢献する。	A		
家政	学科のねらいを明確にして取り組む。	専門性を高めるため、コース制（フードデザインコース・ヒューマンサービスコース）を充実させる。	A	A	学科のねらいを明確にするためコース制の実施について、将来の進路と関わりを持たせて生徒に理解させる必要性を感じた。小中学校、地域への開かれた生活デザイン科を目指し、より広報活動を充実させ、生活デザイン科の取り組みを PR していきたい。
		課題研究（5 講座）を 2・3 学年合同の授業とすることで、選択の幅を広げ、なおかつ専門性を深め継続してできるようにする。また、成果を発表する場を設け、保護者などにも呼びかける。	A		
	教科と家庭クラブ活動の連携を図り、生徒主体の活発な活動を促す。	家庭クラブ講習会などを年に 2 回以上実施し、ボランティア活動など積極的参加を促す。	A		
		ホームプロジェクトを実施し、家庭・地域との連携を図る。また、優秀者を表彰し、次年度への動機づけとする。	B		
	各種検定の資格取得を目指す	放課後や夏季休業中に課外指導を行い、資格取得のための指導を充実させる。	A		

別紙様式 2 (高)

	体験学習の充実を図る。	専門教科において保育実習や介護実習などを行い、より専門的な技術を体験的に学習するための指導を充実させる。	A		
第 1 学年	基本的な生活習慣を身につける。	進んで挨拶をする、学校・社会の規則を守り生活をする等、高校生としてふさわしい振る舞いが出来るように各場面を通じて指導にあたる。	B	B	基本的な生活習慣について、特に校外での振る舞いと、遅刻についての指導が徹底できなかった。次年度の課題としたい。
	落ち着いた授業態度を身につける。	授業での学習を重視し、チャイム前着席及び授業の準備の徹底、並びに授業中の離席及び退室の防止を徹底する。	B		
	心豊かな人間性を養う。	各種学校行事に積極的な参加を促し、主体的に活動できるようにする。	A		
第 2 学年	基本的な生活習慣の確立	一年後の進路を見据え、TPOに合わせた挨拶の励行・適切な言葉遣い敬語使用の徹底を図る。保護者との連携を密にし、規則正しい良好な生活習慣の確立を図り、遅刻・欠席をさせないようにする。	B	B	遅刻が当初の目標よりも多くなってしまった。来年度は進路を決める年でもあるので、来年度も遅刻を減らす努力を続けたい。 学校行事を通して、学年団としてのまとまりはできてきたと感じる。来年度は協調性や積極性をさらに伸ばしていきたい。
	基礎学力の向上、進路目標の早期決定	チャイム前着席と授業の準備を徹底し、落ち着いた態度で授業を受けられるようにする。	B		
		学習合宿・考查前学習週間・勉強会等の学年の取り組みをさらに充実させ、進路実現のための学習習慣の確立を図る。	A		
	心豊かな人間性の育成	卒業後を見据え、社会人としての自覚、公共心、他人への配慮の育成を図る。	A		
		修学旅行各種行事を通して、集団への帰属意識、集団における規律遵守、協調性や積極性を養う。	A		
第 3 学年	自己の適性を理解し、進路の実現を目指す。	総合的な学習の時間等を活用して、職業意識を高めるとともに学習意欲を向上させ、一人一人が輝く活力ある学年づくりをする。	B	B	進路指導部と連携し、学校紹介就職希望者全員の内定を得ることができたが進学に関しては、最新の情報など多くの情報を進路指導部と学年・担任でさらに共有する必要がある。
		課外や各種模擬試験に積極的に参加させ、幅広い力を身に付けさせる。	B		
	進路指導部と連携し、生徒・保護者へ進路に関する情報を伝える。	生徒面談をとおしての進路相談やLHR・学年集会における進路講話等を積極的・継続的に行うことにより、「なりたい」を「なる」に鍛える職業観・勤労観を育成し、生徒の希望進路を実現する。	A		
		進路指導部と連携し、生徒・保護者対象の進路（就職）説明会を計画・実施する。	A		
		進路指導部と学年・担任との連絡・会議・相談を密にし、共通理解を図る。	B		
	規範意識やマナーをわきまえた人間性豊かな社会人の育成。	笑顔でのあいさつやマナー、清掃、整理整頓など基本的な生活習慣を定着させ、服装・身だしなみを整える意識を培う。	B		
		全校・学年集会等における速やかな集合整列、移動教室の施錠、貴重品管理を徹底させる。	A		
国語	基礎学力定着の徹底を図る。	漢字・語句の基礎的な力を培い、国語力の向上を図る。	A	B	語彙力や読解力の向上に努め、進路決定に必要な能力の育成を図る。
		辞典や便覧等を利用し、様々な文章の読解力を高める。	B		
		様々な本を紹介し、読書に対する意欲を喚起する。	B		
	古典の世界に親しませ、基本的事項を理解させる。	画像や音声等を含む教材を利用し、古典の世界に親しませる。	B		
		基本的知識を定着させるとともに、文章を正しく速く読めるよう多くの文章に触れさせる。	B		
	進路を意識して、必要な教材を授業に組み入れる。	国語における一般常識的な内容については問題集等を使用して指導をすすめる。	B		
		教員間の情報の共有を大切にして一人一人の生徒の指導に当たり、進路希望の実現を図る。	A		

別紙様式 2 (高)

地歴・公民	基礎学力の定着を図るとともに、生徒の学習意欲を高め、主体的な学習活動を促進させる。	生徒の実態に応じた授業を展開する。小テストを実施したり、ノートを定期的に提出させたりしながら学習内容の理解度を確認する。	A	B	来年度は、内容の精選を図り、生徒の興味・関心を引き出すような授業展開を大胆に行っていきたい。
		選挙権年齢引き下げにより、今後主権者と主権者となるための意識を醸成する。	B		
		郷土茨城の歴史を日本史や世界史との関連の中で幅広く理解させる「郷育」を推進する。	B		
数学	生徒の学習意欲を喚起し、進路に応じた指導をする。	重要な公式を確実に身につけ適用できるようにすることで、数学の有用性を認識させて学習意欲の喚起を促し、具体的な目標を定めて学習する姿勢を身につけさせる。	B	B	ICT 利活用を促進して、授業の効率化を図り、生徒の理解度も高めたい。
		課外授業や個別指導等を通して、上級学校へ進学を希望する生徒に応じた指導を行う。	A		
	基礎学力の定着を図る。	1 年生普通科では習熟度に応じて 2 クラスを 3 分割にし、学力に応じた授業を展開する。それ以外のクラスでも、問題集やプリント等を積極的に活用し、家庭学習を推進して理解度を高める。	B		
情報	知識・技能および情報の分析・評価・判断力を育成する。	タイピングを練習させる時間を定期的に設け、タッチタイピングの習得を目指す。	A	B	情報モラルについては、教科だけでなく学校全体の取組が必要だと感じた。
		アプリケーションソフトを十分に活用し、情報を効果的に処理できるスキルを身に付けさせる。	B		
	情報モラルに配慮する態度を身に付ける。	個人情報や著作権についての学習を通して、情報の扱い方を学ばせる。	A		
理科	基礎学力の定着を図る。	教科書に記載されている基礎的内容をしっかりと理解・定着させる。そのための計算力や記述力の能力向上もはかる。プリントや問題集などを通して、理解度や達成度を確認する。	B	B	物化生地の 4 科目で、年間を通して実験を定期的に行いたい。また、ICT を使用した授業内容を増やす。
	実験を通して観察・探究する能力を身に付ける。	実験を通して理科の面白さを体験させ、興味・関心が湧くように指導する。実験レポートの作成により自然科学的に考察する能力の向上を図る。実験器具の使い方や実験終了後の整理整頓まで主体的に行動できるように指導する。	B		
	理科的現象への興味と関心を高める。	自然科学としての理科を認識させ、歴史的意義や現代における役割および環境問題などへ思考が及ぶように指導する。現代社会を生きる上で必要な学問であることを理解させる。	A		
保健体育	授業に臨むための基本的学習習慣の定着を図る。	着替え、用具等の準備を含め、迅速に行動し、時間を厳守するように指導する。	A	A	・学年・クラスにより差が大きいので、指導内容を工夫し徹底する。 ・用具類を整備し、効率よく授業を進める
		授業を通ししつけの徹底を図る（指定された服装、開始・終了の挨拶、言葉遣い等）。	A		
	十分な運動量を確保する。	生徒が十分な運動量を確保できる授業を展開する。	B		
	卒業後も主体的にスポーツに取り組める能力の育成を図る。	主体的な活動場面を多くし、考える力や、コミュニケーション能力の育成を図る。	B		
英語	基礎学力の向上を図る。	小テストを実施し、ノートやワークブックを定期的に提出させ、学習内容の理解度を確認する。	A	B	・1 年生の少人数指導を継続し、学力向上を目指す。 ・英検受験者を増やす。課外や個別指導を充実させるよう努める。
		第 1 学年は習熟度に応じて 1 クラスを 2 分割し、少人数によるきめ細かな指導を行う。	A		
		学習内容の定着のため、放課後の補習授業や課外授業を実施する。	B		
		クラスルーム・イングリッシュや音声教材をできるだけ多く使い、リスニング力の向上を目指す。	A		
	英語の授業の改善に努める。	授業内容・方法について教科内で研究協議を行う。	B		
	英検取得を促す。	英検対策課外を行い、過去問題を活用して、検定試験の対策を行う。	B		

別紙様式 2 (高)

家庭		基礎的・基本的な知識と技術を理解させ、実践的な能力や態度を身につけさせる。	TTや分割履修などを活用し、生徒の実態にあった授業を工夫し展開する。	B	B	分割履修、TTでの授業実施を行うことで、生徒の実態に合わせた指導を行うことができた。今後は、専門への進路実現のため、体験的な授業を充実させていきたい。
			実験・実習などを通して各種技能・知識の向上を図る。	B		
		生徒の興味関心を考慮した授業の工夫をする。	生活デザイン科においては、フードデザインコース・ヒューマンサービスコースや課題研究(5講座)では、2・3学年が合同で授業を行うなど多彩な講座を開設することによって教科内容の充実を図る。普通科においては、より体験的な学習ができるように専門性の高い講習会などを実施し、生徒の意欲・関心が高まるように充実を図る。	A		
		作品づくりと自己評価をすることで、学習への取り組みの意欲を高める。	自己評価と他者評価を行うことで、作品づくりの意欲を高め、完成させることで達成感を感じられるような指導の充実を図る。	B		
芸術	音楽	音楽を愛する心情を育て、様々な表現方法を身につける。	生涯にわたって音楽を愛する心を育て、自ら積極的に音楽活動を楽しむ態度を育てる。	A	B	音楽活動を楽しむ態度は養われつつある。さらに積極的に活動をさせたい。様々な音楽に触れることで感性を高めることができるようである。
			多様な形式の歌唱・器楽において、グループでの活動などを通し音楽を作り上げる喜びを味わう。	A		
			日本の音楽を通して日本の伝統文化を尊重する態度を養う。	B		
		音楽に対する感性を磨く。	様々な分野の音楽を主体的に鑑賞し、感じたことを言語で表現し共有する。	B		
	美術	美術を愛好する心情を育て、創造的な表現と鑑賞の基礎的な能力を身につける。	問題発見・解決を念頭に置いて関心・意欲を高めながら、一人一人が輝く個性あふれる主体的な作品制作を行い、感性させる成就感を味わう。	A	B	デッサン力や表現力及び、創造力や発想力を高めることに努める授業をしていきたい。
			画材の基本的な使い方を習得させ、期限内の課題提出を徹底する。	B		
			原始時代から現代までの絵画・彫刻・デザイン・映像・漫画などを鑑賞し、学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた「深い学び」を取り入れた美術表現の理解と関心を高める。	B		

※ 評価規準： 評価段階 A：十分できた B：概ねできた C：やや不十分 D：不十分